

## 教科担任制に関するQ & A

### Q 1 教科担任制を始めるきっかけは、何だったのですか。

- A 片山小学校が教科担任制を導入したのは、平成14年度です。理由は3つあります。
- 1つめは、子どもたちの学力を向上させたいという願いからです。2つめは、教師の意識改革を図ろうとしたことです。担当教科の専門性を高め、教科の特性を生かした指導をすることにより、授業の質の向上をめざしました。3つめは、多くの目で指導にあたることにより、一人一人のよさを伸ばすことができると考えました。また、当時は、「学級崩壊」などが問題になっていましたが、多くの教師が指導にあたることにより、こうした問題も解決できるのではないかと考えました。

### Q 2 導入1年目のようすはどうだったのでしょうか。

- A 担任している学級の子どもの名前も十分に覚えていない状態でスタートしたので、困ることもたくさんありました。年度当初の定期健康診断の際、担任しているクラスを、別の教科担当者が授業をしているようなこともありました。担任は別のクラスの授業をしており、誰が引率をして、記録をするのかなど調整に手間取りました。また、家庭訪問では、担任が担当していない教科について話題になると、児童の学習の様子を質問されても答えられないこともありました。担任とのふれあいが少なくなるのではないかと心配される保護者もいました。水泳指導の時期には、そのための時間割を作成しなければなりませんでした。授業時数を確保するために、毎月、教科担任用の時間割を作成するなど大変でしたが、教科担任制は保護者や児童には好評でした。

### Q 3 導入2年目以降はどうだったのですか。

- A 多くの先生に教科担任制を経験してもらうために、高学年の担任を替えるなどの工夫をすすめました。4月の第1週と3月は学級担任が指導するなどの工夫もしましたが、教科担任制の仕組みに慣れるまでが大変でした。人事異動の関係で前年度の教科担当者との引き継ぎが十分でなかったり、いわゆる「空き時間」が2時間程度の担任がいたりして、学級の事務、ノートの点検、提出物の確認など多忙な日が続きました。
- 学校行事等に伴う時間割の変更は、毎週教科担任会議を行って授業時数を調整しました。特定の教科の授業時数が不足するような場合は、教科を入れ替えて対応しました。運動会など時間割の変更に影響する行事の際に時間割を作りかえることも考えましたが、時間割がたびたび変わるのはいくはないという児童の声もあり、実施しませんでした。

### Q 3 導入3年目以降はどうでしたか。

- A 導入3年目からは、教科担任制を実施している学校に、新座市が市費で教科担任加配として教員を1名配置してくださるようになりました。こうした措置により、時間割の編成においても、学級の事務処理の面でも負担が軽減されるようになり、教科担任制が運営しやすくなりました。
- 理科担当の教師については、対象をを5、6年生から4年生まで広げるなど、4年生も教科担任の準備段階として専科による授業を増やすようにしました。
- 学校として教科担任制の仕組みに慣れてきたこともあり、4月や3月に学級担任が指導する期間を設けなくてもスムーズにスタートできるようになりました。5年目には、毎週水曜日の6校時を5、6年の全学級が書写の時間とし、その時間が空いている低学年の教師に指導してもらって教科担任会議の時間を確保するようにしました。連絡調整をこまめに行うことができるようになり、共通理解を深めて指導ができるようになりました。
- 授業参観では、できるだけ年に一度は各教科担任の授業を公開するようにして、理解を深めていただいています。

### Q 4 教科担任制を高学年に限定した理由は何でしょうか。

- A 「Q1」で述べたようなことや、児童の発達段階を考えると、低学年や中学年は学級担任制が

望ましいと考えられます。また、中学校への接続をスムーズにしたいとの考えもありました。

保護者からは、中学年から始めてもよいのではないかと、という声もありました。しかし、中学年までは、児童の発達段階を考慮して、担任がじっくりと指導することが重要であると考えました。

#### Q 5 担当する教科をどのように決めているのですか。

A 平成22年度までは、高学年担任と専科、市費の教科担任加配で、国語、社会、算数、理科、体育、音楽、図工、家庭科を担当していました。道徳、学活、総合的な学習の時間、英会話は担任が担当しました。学級数によって、国語や算数のように授業時間数の多い教科の場合は、5年担当、6年担当とを分けて実施しました。

平成23年度からは、国語は学級担任が担当するようになりました。新しい学習指導要領で言語力が重視されており、学級の生活を基盤とすることにより指導の効果を高めることができると考えたからです。学級担任は、国語、道徳、学活、総合的な学習、英会話の他に自分の担当教科をもつこととなります。平成23年度は、5年生2クラス、6年生3クラスのため、国語の他に担当教科をもつと時数の偏りが大きく、空き時間もなくなるなどの無理が生じることから教務主任が6年1クラスの算数と5年の社会科を担当しています。

#### Q 6 時間割はどのように作成しているのですか。また、作成上の留意点はどんなことですか。

A 各担当が重複しないように位置づけなければならないため、教務主任が作成しています。手順は、次のとおりです。

- ①学級担任が担当し、週時間数の少ない道徳、学活、総合、(英会話)を位置づける。
- ②2時間続きの教科等(理科、家庭科、図工、総合)を位置づける。35の倍数にならず端数が生じる教科等は、複数を組み合わせて調整しやすくする。
- ③1週間のバランスを考えて、理科、音楽、体育など専科の授業を位置づける。
- ④空いている時間に、算数少人数指導が実施できるよう対象学級の時間割を調整する。
- ⑤各担任、教科担当者がそれぞれの立場で時間割を見て最終調整を行う。

留意事項は、

- ①月曜日1時間目は担任の授業で始まるようにする。
- ②学校行事等学年で取り組む内容に対応できるよう、各学級の学級活動の時間をそろえておく。
- ③2時間続きで実施する場合がある教科は、休日の多い月曜日に位置づけない。

学級数や担当のしかたによって様々な場合があり、時間割編成は難しい作業です。教務主任が一人で担当することには無理があり、素案を作成して教科担当者による調整を行うことが欠かせません。

#### Q 7 学級担任制に比べて、授業時間数の確保が難しいのではないのでしょうか。

A 主に担任が調整しながら実施する学級担任制の授業と比べると、難しい面はあります。教科担任会議できめ細かく調整したり、休日や行事の関係で特定の曜日の授業の実施が少なくなるような場合は、教科の曜日を入れ替えて実施するなどの工夫をしています。

また、週案簿に実施計画・実施記録を記載して確認しながら授業を実施しています。週案簿とともに、実施の累積時数を適宜把握して、不足が生じないに調整しています。

#### Q 8 教科担任制のよさはどんなことでしょうか。

A 一つは、教材研究が深まることです。担当する教科についてじっくりと教材研究を行い、授業の展開を考えることができます。複数のクラスで授業をすることにより、指導の工夫を日常的に行うことができます。

二つ目は、授業の準備の効率化を図ることができることです。教材や教具等の準備が円滑にできます。授業の反省をもとに教材を工夫することもできます。

そして、三つ目は、複数の目で指導にあたり、一人一人のよさを伸ばすことができることです。教科の専門性を高めることにより、児童の興味や関心を促し、理解を深めることができます。

また、複数で指導にあたることにより、一人一人の児童について多くの教師が共通理解をもつことができるので、一人一人のよさを多面的にとらえることができます。児童も、授業を通してより多くの教師と接することにより、得意なことを伸ばしたり不得手なことを克服しやすくなります。問題行動などを担任が一人で抱え込むようなことも避けることができ、積極的な生徒指導が展開できます。

**Q 9 教科担任制の問題点はないのでしょうか。**

A 悩みは大きく3つです。

まず、担任が子どもと接する時間が限られます。子どもの様子を一日を通して把握することができません。発熱などで相対する児童がいた際に、教科担任が対応しなければならず、担任が声をかけられないこともありました。保健室からの連絡を密にして、適切に対応できるようにしています。

二つ目は、教材研究や指導が担当者に委ねられているので、ひとりよがりになりがちな面が生じやすいことです。教科部会の活性化や教科担任会議で各担当の教科について話題にすることも必要です。学校研究では、複数の教科を対象に研究を進め、多面的な視野で教科の指導を考えることができるようにしています。

三つ目は、時間割です。改善を重ねていますが、教科担任制をスムーズに実施できる、満足のいく時間割がなかなかできません。転出する児童がいたときに、お別れ会の時間を設けることが難しかったこともありました。こうした問題は、その都度話し合って解決するようにしてきました。

**Q10 教科担任会議ではどのようなことを話し合っているのですか。**

A 教科担任会議は、高学年担任と専科教師、教務主任により構成しています。児童の学習や生活の様子、各教科の指導等について情報交換や調整をしています。学校行事に伴う時間割の調整なども行っています。

教科担任会議は定期的を実施していますが、大切なのは日常的な情報交換です。休み時間や放課後に児童の様子を話し合い、それぞれの児童ががんばっていたこと、忘れ物や体調のことなど、きめ細かな報告・連絡・相談を心がけています。

**Q11 成績の交換や評価はどのように行っていますか。**

A 各学期の評価は、各教科担当者が担任に渡しています。通知表や指導要録の記載にあたっては、評価だけでなく授業中の学習の様子なども記載して渡すようにしています。担任はそれらを参考に記入しています。

また、教科の特性があるので様式はそろえていませんが、補助簿により個人の学習経過などを記録するようにしています。児童の実態を踏まえた評価の上で大切な記録となっています。

**Q12 教科担任制の課題や今後の見通しについてどのように考えていますか。**

A 教科担任制にしたからといって直ちに、いい授業ができる、学力が向上するということにはならないでしょう。学級担任制にしても教科担任制にしても、教材研究や指導の工夫・改善が大切なことには変わりはありません。教科の専門性を高めることや複数で指導するよさを生かすことにより、教科担任制による指導の効果を高めることができると考えています。

また、教科担任制による指導の効果を高めるためには、学習規律など共通の基盤を整えることが必要です。学習の準備や忘れ物への対応など、担当によって異なるようでは児童が困ります。本校では共通指導事項を定めて、指導にあたっています。

宿題の内容や出し方も各教科ばらばらでは学習に支障を来すので、共通理解が必要です。

さらに、各教科の特性を生かしながら、共通の視点で授業を展開することも大切でしょう。本校では、学校研究において基礎・基本の確実な習得や活用の場の設定など、共通の基盤に立つ授業の展開を目指しています。

実施以来8年を経過して、教科担任制がすっかり定着してきましたので、今後指導体制の工夫・改善をすすめて一層の充実をめざしたいと考えています。